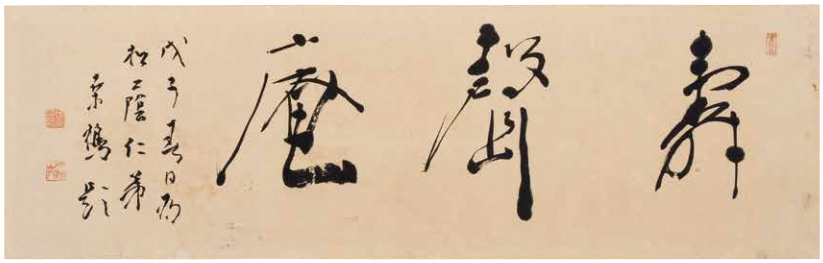
平成29年度　新収蔵書作品紹介

当館では、市民の芸術文化振興を図るため、新潟市北区にゆかりの深い作家の作品を収集･公開しています。



上田桑鳩（うえだ そうきゅう）
（1899–1968、兵庫県生まれ）
「寿声庵」
1948年、墨･紙、23.5×75.5cm

この作品は、上田桑鳩が、戦後まもない1947年暮れから翌年正月にかけて、門弟弦巻松蔭（つるまきしょういん）の生家（葛塚町）に滞在した折、書室に庵号を与えて揮毫したものです。桑鳩は、‘自由な創作’を促す啓蒙活動を全国に展開するため、雑誌『書の美』を創刊する構想を抱いていました。師の訪問の目的は、東京から帰郷したままの松蔭に対し、新設した展覧会への参加を促すとともに、この活動への協力を依頼することだったようです。書論、臨書指導のみならず、美術鑑賞なども盛り込んだ先進的な『書の美』は、実際、寿声庵で書教育を開始した松蔭の拠り所となったのです。　（神田直子）

トピックス

高橋清のモニュメント「希望に向かう人」

「希望に向かう人」1990年
作品寸法　330（高さ）×158（幅）×165（奥行）cm
台座寸法　90（高さ）×325（幅）×250（奥行）cm
作品の材質　アフリカ産黒御影石、ブラジル産赤御影石、徳島産青石、岡山産万成石
台座材質　大島石、庵治玉石

総重量約14ｔ、高さ4m（台座含む）を超える巨大な石彫「希望に向かう人」が、当館（当時豊栄市博物館）の敷地に設置されたのは、1990年11月1日のことです。市制施行20年にふさわしいモニュメントを求めていた旧豊栄市に対し、豊栄ロータリークラブが作品を購入して寄贈することによって、ようやく実現した大事業でした。

制作者、高橋清（1925－1996）は、新潟県南蒲原郡森町村（現三条市）で生まれ、現在の見附市で育ちました。中之島村立中之島尋常高等小学校（現長岡市立中之島中央小学校）、新潟県立新潟中学校（現新潟県立新潟高等学校）で学び、1945年に海軍兵学校を卒業。

戦後、彫刻を志し、1952年に東京美術学校（現東京藝術大学）を卒業した高橋は、オルメカ、マヤ、アステカなどのメソアメリカ古代文明の造形に強くひかれ、1958年にメキシコに渡ります。そこで11年間、研究、制作、後進の指導にあたり、メキシコオリンピック（1968）のモニュメントも手がけました。帰国後は、金沢美術工芸大学で制作指導を行いつつ、国内外で制作活動を展開。1989年には、新潟市庁舎前庭の彫刻群≪希望≫を制作し、新潟市美術館で個展も開催されました。

自然（宇宙）信仰から生み出された、古代の神秘的で原初的な造形に触発された高橋にとって、堅固で恒久性を有する石は永遠性を意味し、石彫表現とは「内に命を秘めた石に、人間の祈りの形を与える」ことでした。その仕事は、敗戦間際に毎日「死」と背中合わせで過ごした過酷な体験を経て、戦後に生き続けていることへの戸惑いと、「生きる自由があること」の感動と希望を抱いて彫刻に向かった高橋の「生」そのものといえましょう。

1989年、高橋は、豊栄市に依頼された作品の構想を練るため、福島潟を訪れ、「自然の厚みと素朴な温かさと美しさ」に感動しました。そして、自然の中で生きる人々の純粋さ、そこに宿る大らかでたくましい生命力を、昇る太陽をみつめ、静かに祈る人間像の造形「希望に向かう人」に込めたのです。　（神田直子）

＊北区役所だより（H29.8.20号）「ふるさと自然と文化」欄の掲載原稿に、一部修正を加えました。